

I 事業の概要（地域の実情含む）

- 本校の復興教育推進計画に基づき、「ライフプランニング（領域教科を合わせた指導）」の学習において、復興学習や防災学習を推進する。
- 東日本大震災から7年が経過した今、震災を忘れることなく、互いに支えあい協力しながらすべての生命を大切にす「生きる力」を育てる。

II 取組の概要

1 防災避難訓練

(1) 学校（3回）

地震を想定した訓練を1回、地震から火災が発生した訓練を2回実施し、避難時の留意事項や避難経路などについて学習した。

また、消火器の使用方法を消防署の方に指導していただいた。



(2) 寄宿舍（3回）

年度はじめに防災オリエンテーションを行い、火災を想定した訓練を2回、地震を想定した訓練を1回実施した。

2 防災学習

(1) 災害時の「困った」への対応（2学年）

ライフラインの障害について、「電気・ガス」「水道」「通信」「輸送・交通」の4テーマに分かれ、どのような困難が生じるか、自分たちに何ができるかを考えたり調べたりした。また、

- 簡易ロウソクを使ったストーブ作り
- 水洗トイレの必要水量、携帯トイレの知識
- 災害用 Web 掲示板的の試行
- ビニール袋炊飯、レトルト食品の活用の実践をとおして、体験的に学んだ。



(2) 炊き出し体験：（3学年）

災害が発生し、ライフラインが止まった状況での食事について体験した。備蓄品のアルファ米や缶詰を自分たちで調理し、試食した。「身の回りの物を使ってかまどを作り、火を起こしてお湯を沸かす方法」や「限られた食数をどう配分するか」を考えながら学習を行った。



3 防災体験セミナー

(1) 防災体験コース受講：（1学年）

岩手県立総合防災センターにおいて、講義やビデオの視聴、体験学習（ロープ結索、簡易ロウソクの作製等）や地震体験をとおして、災害時及び日頃の防災の心構えを学習した。



(2) 応急処置コース受講：（2学年）

岩手県立総合防災センターにおいて、講義やビデオの視聴、体験学習（患者の見方、三角巾の使い方、AED の操作方法等）をとおして、災害時や緊急時における応急処置について学習を深めた。



4 被災地訪問（1学年）

(1) ボランティア活動

陸前高田市の NPO 法人高田松原を守る会を訪問し、育苗畑（松苗を育てる畑）の除草活動を行った。



- (2) 震災遺構、市街地の現状の見学
震災遺構（市営雇用促進住宅、道の駅タピック 45、奇跡の一本松、旧気仙中学校）や市街地の様子を見学した。

- 5 復興バザーへの参加
アイーナ（いわて県民情報交流センター）主催の「復興バザー」に出店した。本校の製品を販売し、売り上げの一部を寄付した。



- 6 峰南祭での復興学習のパネル展示
文化祭で「復興学習」のコーナーを設け、各学年の取り組みを紹介した。



- 7 復興学習報告会
全校生徒が一堂に会して、今年度の各学年の取り組みを報告しあい、学習内容を共有した。



- 8 第1回「いわての復興教育」児童生徒実践発表会
各学年代表の3名が県民会館大ホールで本校の復興教育の取り組みを発表した。



Ⅲ 取組の成果と課題

1 各取り組みの成果と課題

(1) 防災避難訓練

生徒会執行部が企画運営に参加し、訓練の際に指導者がどのような対応をしているのかを見る機会を設け、感想を発表してもらった。また、スロープでの避難体験を計画（雨天のため実施できなかった）するなど、これまでと違った訓練を計画することで、防災への意識を高めることができた。

今後も訓練を継続させる中で、緊張感をもって取り組めるような計画、マンネリ化を防ぐような取り組みを考えていきたい。

(2) 防災体験セミナー

ア 防災体験コース受講（1学年）

体験的な学習をとおして、地震や火災の恐ろしさを感じることができた。また、災害時の対応、知識や技能について、興味関心をもって学ぶことができた。

体験したこと、学んだことを忘れることなく、日々の防災につなげていく取り組みをしていく必要がある。

イ 応急処置コース受講（2学年）

防災においては、「日頃から備えておくこと」、負傷者を発見したときに「勇気をもって行動すること」が大切であることを学んだ。

そのような場面に直面した際に、落ち着いて行動するためには、AEDの操作方法をはじめとした対処方法などについて、一度きりではなく、機会をとらえ、繰り返し学習することが必要である。

(3) 防災学習

ア 災害時の「困った」への対応（2学年）

グループテーマを絞って生徒同士が話し合ったことで、自分ならどうするかを具体的に想像し、様々な意見やアイデアを伝え合うことができた。また、簡単な対処方法を実際に試してみることで、利用できるものが身近にあると気付き、少しの準備と協力で、困難が解消されやすくなることが理解できた。

自分にできることを見つけ、困難を乗り越えるために主体的に備え、工夫し、協力しようとする生徒の育成に今後も努めたい。

イ 炊き出し体験（3学年）

災害状況下ではお湯を沸かすことだけでも大変だということを体験することができ、アルファ米等の味や量について知ることができた。また、協力やコミュニケーションの大切さも実感できた。

(4) 被災地訪問（1学年）

ア ボランティア活動

ボランティア活動をとおして、幼児、高齢者、障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さを学んだ。地域の方に感謝されることで自分も「社会の一員」として貢献し、達成感を得た。「支え、支えられの心」が育つことをねらいとし、実践することができた。

イ 震災遺構、市街地の現状の見学

生徒たちの震災体験は様々である。出身地域にかかわらず、被災地を訪れて現状（震災遺構、市街地）の見学をとおして地震と津波の大きさ、強さを実感した。「強い地震→津波予想→高台避難」や「すべての生命はかけがえのないものであること」などは、言葉や写真での伝承では難しいと思われる。生徒が自分の目で見て体感できたことにより、見学前と後では思考・表現力に大きな変容が見られた。

(5) 復興バザーへの参加

復興に向けて自分たちに何ができるかを考えたり実践したりするなどの意識を常にもって生活することは難しいが、このような企画に参加することで、復興について考える機会をもてたことはとても有意義であった。沿岸地域を応援しようとする方々と一緒に販売活動に参加したことで、復興の力になろうとする気持ちを高めることができた。

(6) 文化祭での復興学習のパネル展示

復興学習の取り組みを、昨年度までは各学年のコーナーに展示していたが、今年度から復興学習のコーナーを設けて展示した。復興学習の取り組みを改めて共有することができたとともに、保護者や地域の方々に本校の復興学習の取り組みを紹介する良い機会となった。

(7) 復興学習報告会

各学年で取り組んだ内容を、全校生徒を前に発表することで、学習した内容を確認したり振り返ったりすることができた。日頃から防災への意識をもつこと、震災を風化させないこと、自分たちができることなど、復興に向けての意識を高めることができた。

(8) 第1回「いわての復興教育」児童生徒実践発表会

記念すべき第1回発表会で本校の取り組みを紹介できたこと、県民会館大ホールの大観衆の前で堂々と発表することができたことは生徒たちにとって貴重な経験となった。

また、被災地の小中学校の思いや、内陸の学校の防災に対する取り組みを知ることができ、今後、本校の復興学習の取り組みを推進する上で参考となった。

2 今年度の取り組みの成果と課題

(1) 校内の取り組み

校内での防災学習、復興学習についてはねらいに沿った取り組みを行うことができた。

防災学習では、防災に対する意識、備えに対する意識を高めることができた。また、復興学習においては、被災地の現状を実際に見て、全校生徒に伝えることで、復興の途中であることを実感したり、復興のために自分たちができることを考えたりする機会になった。

今後も、生徒自身が見たり体験したりする中で、判断して行動できる力を育むような取り組みを展開していきたい。

(2) 地域との連携

これまでも、盛岡市飯岡地区の子どもたちの健全育成と学校間交流を目的として結成されている「飯岡地域エスペロの会」のメンバーとして地域との連携を図ってきたが、防災推進体制の構築、近隣学校等の連携体制の構築には至らなかった。

構築を進めるにあたって、何が必要なのか、どのような連携の仕方があるのか、今までの連携組織の生かし方、連携の必要性など、校内でもう一度精査し、推進していきたい。